

「北いわて・学びのプログラム」 =概要版=

岩手県久慈市中央3-38-2
久慈広域観光協議会
担当：貫牛 利一（かんぎゅう）
Tel：0194-53-5756

2011年3月11日14時46分、M9.0の衝撃的な「東日本大震災」が発生し、未曾有の地震・大津波など、今まで経験したことのない体験。そして、各方面に甚大な被害をもたらしました。人類の豊かさを追求した結果、自然との向き合い方が問われる形となり「地球・自然」が歩調することが最も必要なことと認識させられました。「文明社会」と「地球・自然」と向き合い、距離を縮め、東日本大震災から「学び」後世に「引き継ぐ」ことを目的に、岩手県沿岸北部4市町村（洋野町/久慈市/野田村/普代村）エリアでの「北いわて・学びのプログラム」を計画いたしました。



「北いわて・学びのプログラム」～洋野町編～

東日本大震災による津波で、沿岸部の漁業施設などが壊滅しましたが、高さ12mの防潮堤が津波を大幅に減衰させたため住宅地区の多くには被害が及ばず、八木地区を中心に海に近い民家が損壊したものの死傷者、行方不明者は発生していない。また、農業は、旧種市町では椎茸・寒じめホウレンソウ、漁業では、ウニ、ホヤ、旧大野村では畜産酪農に力を入れています。

～学びプログラム～

- ①種市防潮堤と明治・昭和三陸津波の碑の見学・案内（語り）
 - ②食の匠による地元食材「天然ホヤ」を活用した取組み説明・案内（語り）
 - ③三陸沿岸地域に提供「稚ウニ」生産の栽培センターの取組み説明・案内（語り）
- ※②・③の各施設は、甚大な被害が有りました。
※①～③、各60分の現場視察・案内プログラム。（現場及び室内での案内〔語り〕含む）

場所：岩手県洋野町種市地区（現場及び公民館等）

案内人：町職員及び町漁協職員

食の匠（岩手県認定/地元の婦人グループ、個人）

ウニ博士（ウニ栽培センター所長）

受入人員：300名程度まで（一回当たり。但し、班編成による。）

昼食会場：300名程度まで（交流施設等） → 金額、内容 → 要相談

その他：プログラム内容・時間等詳細は、個別に要相談とします。



町を守る「大堤防」



再生する「ウニ栽培センター」



食の匠「物産センター」

「北いわて・学びのプログラム」～久慈市編～

東北地方太平洋沖地震は、揺れは震度5弱でありましたが、これによる巨大津波に平地部が襲われ、岩手県の調査により、宇部町玉の脇地区に約12.5mの津波が押し寄せたことがわかった。人的被害は死者2名にとどまったものの、海岸沿いにある国家石油備蓄基地のタンクが津波によって流失、破壊され、その近くにあった北日本造船の工場が津波によってほぼ全壊状態となりました。また、小袖海岸に前年8月に完成した『小袖海女センター』が全壊しました。その他、津波による住宅の全壊・一部損壊、浸水の被害も出ています。

～学びプログラム～

- ①北限の海女による「漁」、「津波」のお話し、湾口防波堤の見学（取組み説明）
- ②地下水族館「もぐらんぴあ」と海の間わりと再生に向けた取組み説明（語り）
※各施設は、甚大な被害がありました。
※各60分の現場視察・案内プログラム。（現場及び室内での案内〔語り〕含む）

場所：岩手県久慈市（現場及び公民館等）

案内人：小袖北限の海女の会

地下水族科学館「もぐらんぴあ」職員

受入人員：300名程度まで（一回当たり。但し、班編成による。）

昼食会場：300名程度まで（ホテル、催事場等） → 金額、内容 → 要相談

その他：プログラム内容・時間等詳細は、個別に要相談とします。



久慈湾と石油備蓄基地



大津波後も活動する海女



もぐらんぴあ全景



「北いわて・学びのプログラム」～野田村編～

岩手県北東部、北上山地の東麓、太平洋（野田湾）に面している村です。全般的に山地であり起伏が多い地形ですが、村北東部の宇部川の谷底や中部の根井付近の台地は起伏が少なくなっています。村内は北上山地の支稜が南北に走っています。また、古くから海水を煮詰めて塩を作り、その塩は牛の背に積まれ、内陸部まで運ばれました。

東日本大震災による大津波で村中心部が壊滅的被害を受け、38名もの尊い命を奪いました。

～学びプログラム～

①塩づくりの村/塩づくり再生への取組み説明・案内（語り）

②野田湾での育てる漁業と大津波/ホタテ養殖再生への取組み説明・案内（語り）

※各施設は、甚大な被害が有りました。

※各60分の現場視察・案内プログラム。（現場及び室内での案内〔語り〕含む）

場所：岩手県野田村（現場及び公民館等）

案内人：野田村漁協生産部員（漁師）

村役場職員等

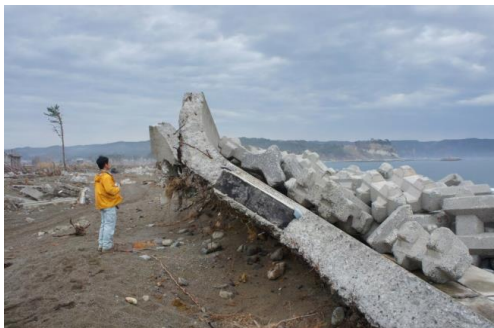
受入人員：300名程度まで（一回当たり。但し、班編成による。）

昼食会場：300名程度まで（催事場等） → 金額、内容 → 要相談

その他：プログラム内容・時間等詳細は、個別に要相談とします。



名勝/十府ヶ浦海岸とやませ



破壊された十府ヶ浦の堤防



野田塩づくりと塩の道

「北いわて・学びのプログラム」～普代村編～

過去の大震災・大津波で多数の被害者(普代村では、1896年の明治三陸地震で302名、1933年の昭和三陸地震で137名の犠牲者)を出した苦い経験から、村は津波から住民を守る防壁設置を検討、このうち普代水門は1984年に完成した。建設費は約36億円で、太田名部堤防と合わせて県の事業として行われ、総工費計約36億円のうち一割程度を村が負担しました。普代水門の高さは、計画時に高すぎると非難を浴びましたが、当時の村長は「2度あることは3度あってはならない」と譲りませんでした。

～学びプログラム～

- ①普代水門の建設経緯と大津波の歴史(現場見学及び取組み説明(語り))
- ②大震災時、水門閉鎖等の状況と村の対応状況(現場見学及び取組み説明(語り))

※漁港施設等の被害が有りましたが、人的被害は有りませんでした。

※各60分の現場視察・案内プログラム。(現場及び室内での案内〔語り〕含む)

場所：岩手県普代村(現場及び公民館等)

案内人：村消防団団員

村役場職員等

受入人員：300名程度まで(一回当たり。但し、班編成による。)

昼食会場：300名程度まで(催事場等) → 金額、内容 → 要相談

その他：プログラム内容・時間等詳細は、個別に要相談とします。



普代浜/上流の大堤防



大津波後の大堤防



黒崎園地/黒崎灯台

防災プログラム詳細 <洋野町1>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム洋野町編 『種市防波堤と明治・昭和三陸津波の碑の見学・案内』 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/134.html
実施団体／担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当：貫牛 利一（かんぎゅう） 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ／大区分／小区分	防災まちづくりを学ぶ／津波対策／津波防災化、土地利用
	特記事項	
詳細情報	可能人数	～300人程度まで
	料金／所要時間／休日	要相談／60分／通年
	申込方法／予約有無	電話連絡／予約必要
体験内容	種類／災害シーン	見学・講和／震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内（語り） プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	明治三陸大津波、昭和三陸津波での教訓を生かし、毎年防災訓練を実施。参加者が年々減少したことで防災訓練のあり方を見直した。消防団員の意識も変わり率先して退避することで住民に「逃げる」意識を高めた。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。 http://memory.ever.jp/tsunami/shogen_iw_hirono.html
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点（写真パネル）
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	東日本大震災による津波で多くの沿岸部が壊滅的な状態の中、高さ12mの防潮堤が津波を大幅に減衰し被害が極めて少なかった。沿岸部で唯一、死者・行方不明者がゼロだった。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し（教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有）
	学習テーマ・目的	日頃の防災教育の重要性
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策を学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	自己決断（判断）の必要性和過去の教訓から学び得る人間力の向上
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <洋野町2>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム洋野町編 『食の匠による地元食材「天然ホヤ」を活用した取り組み説明・案内』 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/134.html
実施団体／担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当：貫牛 利一（かんぎゅう） 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ／大区分／小区分	産業や暮らしの復興を学ぶ/生活・暮らし/自分たちの町の歴史・文化から復興を紐解く
	特記事項	
詳細情報	可能人数	～300人程度まで
	料金／所要時間／休日	要相談/60分/通年
	申込方法／予約有無	電話連絡／予約必要
体験内容	種類／災害シーン	見学・講和/震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内（語り） プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	全壊した物産センター跡地に、ひろの水産会館UNIQIE(ウニーク)が建設され復興のシンボルとなる。展示や体験などの他に買い物や食事を楽しむことができる、観光発信・体験交流の拠点となる。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。また、食料の備蓄。
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点(写真パネル)
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	食の匠「物産センター」は甚大な被害があった 旧種市町では漁業では、ウニ、ホヤに力を入れている。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し(教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有)
	学習テーマ・目的	甚大な被害のあった物産センターの復興への道のり 岩手県の食文化を知る
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	食料(一次産業)の重要性との防災意識の醸成(食料備蓄)
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <洋野町3>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム洋野町編 『三陸沿岸地域に提供「稚うに」生産の栽培センター取組み説明・案内』 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/134.html
実施団体／担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当：貫牛 利一（かんぎゅう） 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ／大区分／小区分	産業や暮らしの復興を学ぶ／生活・暮らし／震災からの復興への取り組み
	特記事項	
詳細情報	可能人数	～300人程度まで
	料金／所要時間／休日	要相談/60分/通年
	申込方法／予約有無	電話連絡／予約必要
体験内容	種類／災害シーン	見学・講和/震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内（語り） プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	「町民生活の再生」、「ウニの里と地域産業の復興」「災害に強いまちづくり」を掲げ、復興に取り組んでいる。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。また、一次産業（漁業）の重要性
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点（写真パネル）
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	「ウニ栽培センター」は、甚大な被害があった旧種市町では漁業では、ウニ、ホヤに力を入れている。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し（教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有）
	学習テーマ・目的	ウニの栽培・成長の様子を知る 甚大な被害をこうむった「ウニ栽培センター」の再生を学ぶ
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	食料（一次産業）の重要性との防災意識の醸成（食料備蓄）
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <久慈市1>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム久慈編 『北限の海女による「漁」・「津波」のお話し、湾口防波堤の見学』 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/135.html
実施団体／担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当：貫牛 利一（かんぎゅう） 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ／大区分／小区分	産業や暮らしの復興を学ぶ／生活・暮らし／震災から復興への取り組み
	特記事項	
詳細情報	可能人数	～300人程度まで
	料金／所要時間／休日	要相談／60分／通年
	申込方法／予約有無	電話連絡／予約必要
体験内容	種類／災害シーン	案内・説明／震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内（語り） プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	津波で流された全施設に代わり、新たな小袖海女センターが建設される。地上3階建てで、観光案内所、産直施設、海女を紹介する展示コーナーなどがあり食事もできる。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。また、伝統文化の継承の重要性。
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点（写真パネル）
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	津波12.5m 国家石油備蓄基地が流失・破壊 北日本造船工場 全壊状態 前年8月に完成した小袖海女センターも全壊
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し（教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有）
	学習テーマ・目的	甚大な被害を受けた「小袖海女センター」の復興への道のり 小袖海岸で活躍する北限の海女の紹介 湾口防波堤を見学し、防災への取り組みを学ぶ
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	防災意識の醸成と伝統文化の継承の必要性
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <久慈市2>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム久慈編 『地下水族館「もぐらんぴあ」と海の関わりと再生に向けた取組み説明』 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/135.html
実施団体／担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当：貫牛 利一（かんぎゅう） 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ／大区分／小区分	産業や暮らしの復興を学ぶ／生活・暮らし／自分たちの町の歴史・文化から復興を紐解く
	特記事項	
詳細情報	可能人数	～300人程度まで
	料金／所要時間／休日	要相談/60分/通年
	申込方法／予約有無	電話連絡／予約必要
体験内容	種類／災害シーン	案内・説明/震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内（語り） プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	奇跡的に生き残っていたウミガメの「かめ吉」。しばらく青森の水族館に疎開されていたが、もぐらんぴあの復活に伴い戻ってきた。「震災を乗り越えた生き物」として、市民や観光客に勇気と希望を与えてくれている。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。避難誘導の決断力。
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点（写真パネル）
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	津波12.5m 国家石油備蓄基地が流失・破壊など、周辺地域も壊滅的な状況 もぐらんぴあ全壊状態 平成28年4月に5年ぶりに再開した。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し（教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有）
	学習テーマ・目的	全壊した「もぐらんぴあ」の被災当時の状況や再生までの道のり
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	自己決断（判断）の必要性和過去の教訓から学び得る人間力の向上
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <野田村1>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム野田編 塩づくりの村/塩づくり再生への取組み説明・案内 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/136.html
実施団体/担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当: 貫牛 利一(かんぎゅう) 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ/大区分/小区分	産業や暮らしの復興を学ぶ/生活・暮らし/自分たちの町の歴史・文化から復興を紐解く
	特記事項	
詳細情報	可能人数	~300人程度まで
	料金/所要時間/休日	要相談/60分/通年
	申込方法/予約有無	電話連絡/予約必要
体験内容	種類/災害シーン	案内・説明/震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内(語り) プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	のだ塩工房が流出、11カ月後に新しくのだ塩工房が完成。完成直後は、被災したかつての防潮林(黒松)が薪として使われたりもした。「のだ塩」の再生は野田村の復興のシンボルでもある。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。また、伝統技術の継承の必要性
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点(写真パネル)
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	古くから海水を煮詰めて塩を作り、牛の背に積んで内陸部まで運ばれた。大津波で村中心部が壊滅的被害を受けた。塩工房も流出する。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し(教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有)
	学習テーマ・目的	被災した野田村の現状を知ってもらおうと共に、自然にあふれた野田村の魅力を探る。また、野田村の塩の歴史について学ぶ。
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	防災意識の醸成と伝統文化の継承の必要性
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <野田村2>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム野田編 野田湾での育てる漁業と大津波/ホタテ養殖再生への取り組み説明・案内 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/136.html
実施団体/担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当: 貫牛 利一(かんぎゅう) 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ/大区分/小区分	産業や暮らしの復興を学ぶ/生活・暮らし/震災からの復興への取り組み
	特記事項	
詳細情報	可能人数	~300人程度まで
	料金/所要時間/休日	要相談/60分/通年
	申込方法/予約有無	電話連絡/予約必要
体験内容	種類/災害シーン	案内・説明/震災当時の状況
	行程または内容	現場視察及び室内での案内(語り) プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	津波によりホタテ養殖場や施設がすべて流失。平成24年に復興にこぎつける。毎年行っていた「野田ホタテ祭り」を再開し、26年には「岩手野田村荒海団」を結成。漁師一丸となって野田村産ホタテの生産に力を入れている。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。また、一次産業(漁業)の重要性
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点(写真パネル)
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	大津波で村中心部が壊滅的被害を受けた。 施設も甚大な被害があった。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し(教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有)
	学習テーマ・目的	甚大な被害を受けたホタテ養殖施設が再生するまでの道のり 野田村の漁業の様子を学ぶ
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	食料(一次産業)の重要性との防災意識の醸成(食料備蓄)
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 < 普代村1 >

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム普代村編 普代水門の建設経緯と大津波の歴史 http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/137.html
実施団体／担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当：貫牛 利一（かんぎゅう） 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ／大区分／小区分	防災まちづくりを学ぶ／津波対策／過去の予防対策と現在の減災対策
	特記事項	
詳細情報	可能人数	～300人程度まで
	料金／所要時間／休日	要相談／60分／通年
	申込方法／予約有無	電話連絡／予約必要
体験内容	種類／災害シーン	見学・説明／震災当時の状況
	行程または内容	防壁設備の見学案内・とりくみ説明（語り） プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	過去の津波の甚大な被害の教訓から、当時の村長が反対の声を押し切り建設にこぎつけた高さ15.5mの水門が、東日本大震災の時に効果を発揮して村民の命を守った。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点（写真パネル）
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	明治三陸地震、昭和三陸地震での甚大な被害により、住民を守るための水門を完成させた。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し（教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有）
	学習テーマ・目的	過去の津波の被害状況 水門の建設経緯
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	自己決断（判断）の必要性と過去の教訓から学び得る人間力の向上
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要

防災プログラム詳細 <普代村2>

大項目	中項目	内容
プログラム名	プログラムタイトル	学びのプログラム普代村編 大震災時、水門閉鎖などの状況と村の対応状況(現場見学及び取組み説明) http://www.iwatetabi.jp/edu_travel/detail/03207/137.html
実施団体/担当者 問い合わせ先 抽出情報元 or URL	受入団体詳細	久慈広域観光協議会 担当: 貫牛 利一(かんぎゅう) 電話0194-53-5756 FAX 0194-66-8006
体系化情報	テーマ/大区分/小区分	災害時の連携を学ぶ/県市町村の災害対応/災害対策本部の役割と実施事例、課題
	特記事項	
詳細情報	可能人数	~300人程度まで
	料金/所要時間/休日	要相談/60分/通年
	申込方法/予約有無	電話連絡/予約必要
体験内容	種類/災害シーン	見学・説明/震災当時の状況
	行程または内容	防壁設備の見学案内・とりくみ説明(語り) プログラム内容・時間など詳細は、個別に要相談とする。
	伝えたい事	東日本大震災からの教訓と日頃からの備えの必要性
	重要ポイント	普代水門は遠隔操作で水門の開閉をできるようになっているが、操作中に地震の影響で停電。一部を久慈消防本部の職員が手動で操作して津波到達の前に水門を閉めた。津波は水門を超えたものの、住宅などに浸水の被害はなかった。
	教訓	真っ先に海から遠く、高いところへ避難する。防災施設整備の重要性。
	利用ツール	震災当時の写真パネル
	利用アーカイブ	震災当時の状況の写真10点(写真パネル)
被災地別特徴	対象地区の特徴・課題	漁港施設等の被害はあったが、人的被害はなかった。
防災教育として	災害種類	津波被害
	ターゲット	中学生以上
	事前知識の必要性	事前知識は特に必要無し(教育旅行の場合は、訪問自治体の事前学習の必要性有)
	学習テーマ・目的	大震災時の水門閉鎖の状況や村の対応状況
	アウトプット	振り返りシートに記入
	副読本の有無	無し
	得られる成果	津波対策・避難対策、防災対策を通じて、平時からの備えについてを学べる
	心のケアへの対処	津波写真を利用するため、フラッシュバックの危険性
	体験を通した成長目標	自己決断(判断)の必要性和過去の教訓から学び得る人間力の向上
インバウンド対応	説明言語	日本語のみ
	ツールの多言語化	無し
	災害文化への認識	無し
	必要な防災用語	防災訓練、防潮堤、防波堤、津波避難経路、津波避難タワー など
実施時の評価	課題・問題点・評価点など インバウンド対応時の考慮	通訳人、要必要